

令和6年3月22日

横浜市長

山中 竹春 様

横浜市公共事業評価委員会

委員長 森地 茂

令和5年度 第2回横浜市公共事業評価委員会の審議結果について

横浜市公共事業評価委員会は、令和5年度第2回横浜市公共事業評価委員会において、横浜市附属機関設置条例に定める担当事務に基づき、事前評価1件、事後評価1件、再評価2件を審議した結果、評価案件について審議結果のとおりとしました。

1 委員会の開催経過

第2回委員会：令和6年1月26日(金) 午前9時30分から午前11時15分まで

	評価	事業名	所管局	審議結果
都整-1	事前評価	市道環状4号線交差点改良事業	都市整備局	妥当
健福-1	事後評価	日野公園墓地納骨堂整備事業	健康福祉局	妥当
健福-2	再評価	(仮称) 舞岡地区新墓園整備事業	健康福祉局	妥当
経済-1	再評価	横浜市中心卸売市場青果部施設整備事業	経済局	妥当

2 意見具申

なし

横浜市公共事業評価委員会 委員

(敬称略・50音順)

委員名	現職名	専門分野
(いしかわ えいこ) 石川 永子	横浜市立大学 国際教養学部 都市学系 准教授	都市防災、復興まちづくり 都市計画
(かまた もとゆき) 鎌田 素之	関東学院大学 理工学部 理工学科 准教授	衛生工学、水道工学
(たなか いねこ) 田中 稲子	横浜国立大学 大学院 都市イノベーション研究院 教授	建築環境工学 住環境
(なかむら ふみひこ) 中村 文彦	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 特任教授	都市交通計画、交通施設計画 都市計画、地域計画
(むろた まさこ) 室田 昌子	東京都市大学 環境学部 環境創生学科 教授	都市計画 市街地・コミュニティ再生
(もちづき まさみつ) 望月 正光	関東学院常務理事 関東学院大学名誉教授	財政学、公共経済
(もりち しげる) ◎ 森地 茂	政策研究大学院大学 客員教授、名誉教授	社会基盤工学 国土政策、交通政策
(よこた しげひろ) 横田 樹広	東京都市大学 環境学部 環境創生学科 教授	都市生態計画 緑地保全・創出
(わしづ あゆ) 鷺津 明由	早稲田大学 社会科学総合学院 教授	産業関連論 環境影響評価、環境政策

(令和6年3月31日まで)

◎…横浜市公共事業評価委員会 委員長

令和5年度第2回横浜市公共事業評価委員会 会議録			
日 時	令和6年1月26日(金) 9時30分から11時15分		
開催場所	新市庁舎18階 みなと4 (WEB会議)		
出席委員	森地茂委員長 石川永子委員、鎌田素之委員、中村文彦委員、室田昌子委員 望月正光委員、横田樹広委員、鷺津明由委員(50音順)		
欠席委員	田中稲子委員		
事務局	財政局ファシリティマネジメント推進室 福島室長、中澤担当部長、ファシリティマネジメント推進課 古檜山担当課長		
説明者 (事務局以外)	1(1) 都市整備局 上瀬谷交通整備課	原田担当課長	※以下(都整局)
	1(2) 健康福祉局 環境施設課	岩澤課長	※以下(健福局)
	1(3) 健康福祉局 環境施設課	大胡担当係長	※以下(健福局)
	1(4) 経済局 中央卸売市場本場運営調整課	花田担当課長	※以下(経済局)
開催形態	公開(傍聴0人、報道機関1人)		
議 題	II 議事 1 審議 (1)〔事前評価〕市道環状4号線交差点改良事業 [都整局] (2)〔事後評価〕日野公園墓地納骨堂整備事業 [健福局] (3)〔再評価〕(仮称)舞岡地区新墓園整備事業 [健福局] (4)〔再評価〕横浜市中央卸売市場青果部施設整備事業 [経済局] 2 その他		
決定事項	1(1) 市道環状4号線交差点改良事業 ・意見具申なしとした。事業実施(案)について「妥当」とした。 1(2) 日野公園墓地納骨堂整備事業 ・意見具申なしとした。事後評価(案)について「妥当」とした。 1(3) (仮称)舞岡地区新墓園整備事業 ・意見具申なしとした。対応方針(案)について「妥当」とした。 1(4) 横浜市中央卸売市場青果部施設整備事業 ・意見具申なしとした。対応方針(案)について「妥当」とした。		
議 事	はじめに (事務局) 今回の委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点などから、WEB会議形式とすることを説明 委員会成立の定足数5名に達しており、会議が成立していることを報告 会議を公開することについて確認 II 議事 1(1) 市道環状4号線交差点改良事業について (都整局) 議事II 1(1)について説明 (委員長) 質問等あればどうぞ。		

(中村委員) 三点確認したい。一点目は過日実施された地元向けの事業説明会では参加者からどのような質問や意見があったのか教えてもらいたい。本事業の遂行に対して検討しなければいけないような指摘などあったのかどうか。二点目は事業の効果として様々な定性的事項の記載があるが、その中に自転車・歩行者に係る効果の記述がないが、この地域の土地利用等を考えた時にこの点は気にしなくて良いのかどうか確認したい。三点目は、GREEN×EXPO2027(2027年国際園芸博覧会)の方で交通輸送対策に関する検討を別途されていると理解しているが、そちらと本事業について情報共有されているかどうか確認したい。GREEN×EXPO2027の方の需要予測やシャトルバスの対策など様々な計算を行う際、本事業が完成することにより道路がどのようになるのかという前提がしっかりと共有されているか。

(都整局) 一点目に関しては、主な意見としてまず立体交差を整備することにより居住場所からの生活の動線が不便にならないようにしてほしいということ、また事業区間の端に近いところの居住者などから立体交差を整備することで日影の影響などがどのようになるのか少し心配だというようなことの二つの意見を頂いた。

(中村委員) 分かった。是非対応してもらいたい。

(都整局) 二点目に関しては、将来の土地利用を踏まえた上での交通量の推計をB/Cの算出では用いている。

(中村委員) 先ほどの話とも繋がるのだが、地域に居住者もいるので、先に説明された資料では事業の効果が全て自動車の円滑な交通のことばかりに見えるが、地域の歩行者や自転車の通行環境に対しても配慮していることで良いか。

(都整局) 歩行者と自転車の通行に関してもしっかりと自転車通行帯等を整備していくことで対応していきたいと考えている。

(中村委員) 現在の交差点改良なので沿線に居住の状況がある場合には、その点にも触れておいた方が良くと思うので参考にしてもらいたい。

(都整局) 三点目に関しては、2027年国際園芸博覧会協会が設置する輸送対策協議会等と本事業の立体交差の状況等情報については密に連携している。この立体交差事業は輸送対策協議会と交通量の推計、シャトルバスの運用などしっかりと連携する形で進めている。

(中村委員) 分かった。

(鷺津委員) 三点ほど意見を述べたい。一点目は中村委員の質問に対しB/Cを算出するための便益としては渋滞解消による自動車の走行時間の短縮や経費の減少、交通事故の減少による効果を貨幣換算し金銭的に見える化したものというように述べていたと思う。問題とまでは言わないが、それらと比べて周辺住民の便益が見える化されていないことが若干気になる。これは費用便益分析の便益や費用便益比を増やすという意味ではなく、そのことを見える化ししっかりと評価していくという姿勢が重要だと思う。そのため、周辺住民の便益が見える化していくことが今後必要ではないかと課題意識を持った。二点

目は今回説明がよくまとめられており素晴らしいプレゼンテーションであったとの所感であるが、一つ思うところがある。コスト削減の取組では、単に工事費を減らすだけでなく、維持管理コストの削減について言及されていた部分が素晴らしいと思った。つまり、建設時のコストが多少高くても維持管理費を削減することにより、長期的に見るとトータルコストが削減され、この事業は適切であるという主張が良かったのだが、それと同時にできれば見える化する、つまり試算ではこれだけの建設費用を要するが維持管理費は供用開始後 50 年間でこれだけ削減されるというようなことをもう少し定量化して示されると良い。三点目はこのような大規模な工事では環境に対する負荷が多くなる。そこではコンクリートや鉄の部材も使わざるを得ないのだが、工事における環境負荷をどのようにうまく配慮していくか。これはこれまでも私が主張してきたことだが、工事業者に対して環境配慮を義務付け、環境に配慮する事業者を積極的に採用していくべきだということに対し、本事業でも総合評価落札方式の評価項目に Y-SDGs への認証状況の選択を検討と明確に示して頂き高く評価したいと思うが、そのことに加えて次のことも示していくことが必要ではないかと思った。SDGs は環境だけでなく、横浜市のホームページを見ると、「環境、社会、ガバナンス及び地域の 4 つの分野で、30 項目で評価を実施し」と記載されているので、環境への配慮を例えば、持続可能性への配慮、あるいは環境、社会、ガバナンス及び地域への配慮というような形で、もう少し拡大し、ジェンダー平等や外国人労働者、多様性の観点などからも工事全体として総合的に配慮するという姿勢をこのような機会にアピールしていくことが地方自治体として必要ではないか。必ずしも質問ではなく、意見として述べる。

(都 整 局) 一点目の御意見、費用便益分析の便益などを増やすという意識に加え、地元の皆様にしつかりと寄り添うような形になろうかと思う。地元向けの事業説明会をした時に参加者から頂いた先述の様々な意見については、例えば、日影の影響を受ける方々には一人一人、一軒一軒、丁寧に説明をして回り、そこでまた生々しい意見も頂いたので、しっかりとそういったところへの問題意識を持ちながら事業を進めていきたい。二点目のコスト削減に関しては、耐候性鋼材等を使用していくことで維持管理の手間が省力化できるような橋梁を今回採用しており、50 年後、100 年後までの維持管理コストとインシヤルコストのトータルで比較検討した上で、メンテナンスフリーになるような方向でかつ環境に優しいという観点も踏まえ今回この構造を採用している。その部分ではもう少ししっかりと見える化していくようなことはしていきたい。三点目の環境負荷に関しては、今回、業者選定の際に総合評価落札方式を採用していこうと考えている。先生から頂いた意見をしっかりと受け止め、Y-SDGs、市として横浜独自のこのような環境配慮のところもしっかりと利用しながら、今後、工事発注など事業を進めていきたい。

(鷺津委員) 先の意見の趣旨は、環境ばかりではなく、社会や人権、その他の問題など

への配慮もSDGsには含まれているので、環境への配慮ということだけではなく、もう少し拡大した総合的な配慮を示すべきだということである。

(望月委員) 事業スケジュールに令和9年3月のGREEN×EXP02027開幕までに完成予定とあるように期限が決められた中でそれに向けて本事業を行うことになるが、公共事業では時間が大変大事だと私は思っている。本事業では用地買収は必要なく嵩上げをするということなので、事業スケジュールの管理はしっかりと行われると思うが、その一点だけ気になる。大丈夫なのか。

(都整局) 令和9年3月のGREEN×EXP02027を目指してというところで話を頂いたが、基本的には、将来のまちづくりに向けて立体交差は必要だと考えているところである。ただ今回、整備をする上で、せっかく造るのであれば大きなイベントとなるGREEN×EXP02027があるので、そこまでにしっかりと効果が発現されるようにした方が良いだろうということで、現在このスケジュールを組んでいる。そして懸念されているスケジュールの管理に関しては、社会情勢等も捉えてしっかりと工程の方を現在煮詰めており、それを踏まえた上で工事発注のスケジュールを組み、令和9年3月のGREEN×EXP02027開催までに完成させ供用開始できるように、またスケジュールが厳しく余裕がない状態とならぬようにしっかりと進めていきたい。

(望月委員) GREEN×EXP02027で最も懸念するのはアクセスの問題だと思っている。周辺の道路事情等を勘案すると相当混雑するのではないか、その対策は当然考えていると思うが、この交差点が改善されることはその対策の一つになると思う。横浜の場合、どうしても全体の交通アクセスが十分に整備されている状況ではないと私は思っており、このようなボトルネックとなる交差点の改善は今後重要になると思うので、その参考として生かしてもらいたい。

(石川委員) 二点質問したい。一点目は、事前評価であり、先にタイムマネジメントの話は聞いたので、予算の話である。現在、詳細設計中だが、予算の変動について教えてもらいたい。ないと思いたいのだが、例えば、地盤調査などで事業費が大幅に変動するような要素は十分照査されており、振れ幅がある程度確定しているためそれほど大きくは変動しないのか、あるいはまだ変更となる要素があると踏んでいるのか、その辺りはどうなのか。二点目は、先述のメンテナンスフリーの橋梁の部分などとても良い取組だと思うのだが、メンテナンスフリーと言っても完全にメンテナンスフリーではないと思うので、その辺りのメンテナンスがどうなるのか。また、その交差点を通行する方や近隣居住者の方にとって圧迫感がないような形で上手く橋梁の構造などを考えているのか確認したい。

(都整局) 現在、詳細設計を進めており、ほぼ最終的なディテールが見えてきている。その上で、工事費を算定した結果がこの事業費のとおりである。地盤調査も事前にしっかりと行っており、その結果から基礎の本数を決めている。また、鋼材など資材費がここ数年上昇しているところも反映した上で、この工事費を算定しているので、事業費が大幅に増加しないような方向にはなっている

と思う。二点目のメンテナンスフリーに関しては、メンテナンスフリーと言ってもメンテナンスを何もしなくて良いわけではないので、しっかりと対応できるような形で道路管理者、橋梁管理者と協議を進めており、今回の計画を煮詰めている。また、圧迫感のないような構造ということに関しては、今回は4車線の内の中央2車線だけを立体交差化する形となり、道路の中心側で近隣の住宅からは離れたところに橋梁ができるということで圧迫感も相当軽減されているというところをシミュレーションの画など携え、地元の方々にも提示しながら説明をさせて頂いたところである。

(石川委員) 分かった。

(委員 長) いくつか意見があったことは今後の進め方に関することと思う。本案件は意見具申なしとし、妥当で良いか。

(委員) 異議なし。

(委員 長) それでは、本案件は妥当とする。本件の審議については以上

1 (2) 日野公園墓地納骨堂整備事業について

(健 福 局) 議事Ⅱ 1 (2)について説明

(委員 長) 質問等あればどうぞ。

(鎌田委員) 2万体の合葬式納骨施設が当初から増えたということだが、これは市民のニーズが様々あってのことだと思う。この墓地形態や供給数の変更の根拠になったアンケート調査の結果など教えてもらいたい。

(健 福 局) 日頃の運営で頂いた市民の声や市民アンケート調査の結果から、合葬式というように市民の声を頂戴しており、それに基づき当初の計画から変更して合葬式納骨施設も造った。

(鎌田委員) そこはアンケートに基づいてということで良いか。

(健 福 局) そのとおりである。

(鎌田委員) 分かった。墓地のニーズを把握することはなかなか難しいかもしれないと思うが、独立採算ということなので、新プランの導入により自動搬送式納骨施設の応募状況は上向きに転じているということだが、極力採算が取れるような形で上手に事業を進めてもらいたい。

(鷺津委員) 二点質問したい。一点目は市民アンケート調査では具体的にどのような質問項目に対してどのように回答があったので合葬式納骨施設を増やすことにしたのかをもう少し詳しく知りたいので教えてもらいたい。二点目は、どのようにそのことを受け取るかにもよるが、自動搬送式納骨施設の販売促進のために新たな使用プランを用意したように聞こえ、これは使用期間30年間で終了後、お墓を引き継がない、延長しないということを促進するような方向に思えた。逆に60年間を超えても先祖代々のお墓を参りたいという方もいるのではないかとも思うのだが、そのように思っている人と30年で使用は終了し合同埋蔵墓に合祀することが良いと思っている人が半々だとすると、自動搬送式納骨施設の使用期間を更に延長する方向でプランを用意す

れば応募が更に増えるのではないか。何か確たる根拠があり、そのような方向の計画にしているのかどうかを確認したい。そもそも自動搬送式納骨施設の耐久性はどのぐらいあるのか。100年後、200年後に先祖を引き継ぐことが想定されているような施設ではないのかどうか教えてもらいたい。

(健福局) 一点目は、「横浜市墓地に関する市民アンケート調査」を5年ごと実施し、例えば、調書(案)11ページにある「取得したい墓地の志向」では芝生にプレートを設置した個々に区画されたお墓が約25%、樹木を墓標に見立て遺骨は骨壺ごと土に埋める共同墓が約19%というようなアンケート結果を踏まえて、それらのニーズに対応するために合葬式納骨施設を設けることとした。二点目はこもれば納骨堂の建物を仮に今後作り替えるなら60年後となり、そこまではお骨をお預かりできると考えている。それ以降については未定である。新しい納骨堂を整備するのか、あるいは合葬式納骨施設に供養させて頂くのかというところは議論の必要などころではないかと考えている。これは今後の課題だと考えている。

(鷺津委員) 技術的に不可能だから60年以降は受け入れられないという理解で良いか。

(健福局) もし継続するとしても建て替え等が必要になると思うので、その辺は今後考えていかなければいけないが、基本的に現在募集しているのは60年というスパンであり、建物の耐久性を考えて行っているところである。

(鷺津委員) 分かった。

(横田委員) 本事業では建設事業の構造的なコストを下げつつ、環境配慮として自然空調などの設備を導入された部分が大変良いと思うのだが、そのようなVE提案のようなものをどのようにして実現されたのか教えてもらいたい。

(委員長) 室田委員から質問があるので事業所管局からはあわせて回答すること。

(室田委員) 様々な工夫をしていることは分かったが、収支が赤字になっていないか、あるいは変更の結果として収支状況が改善されているかどうかを教えてもらいたい。

(健福局) 一点目では、この施設を整備する際、プロポーザル形式として事業者から出される様々な提案の中で良い提案があったところである。二点目では、現時点の経営の状況として収支は均衡しており、特に赤字ということはなく、上手く自立経営ができているところである。

(室田委員) 分かった。

(横田委員) 私も大丈夫なのだが、そのプロポーザル提案において自然空調のような環境配慮を条件として挙げていたのか、それともこういった環境や設備の施設であれば自然空調の導入がコスト的な負担は増えるかもしれないが、より環境配慮に貢献するという提案があったのか教えてもらいたい。

(健福局) 基本的に自然空調のような環境配慮を条件としてはいなかったと記憶している。事業者からそのような良い提案があり、環境に配慮した形での施設を整備したところである。

(横田委員) 分かった。

(中村委員) 事前評価をした時のことも覚えているので、とても良い施設になったと思うが、事前評価に対する事後評価なので次のことを改めて確認したい。建物の構造が当初鉄筋コンクリート造であったものを鉄骨造に変更されたとのことだが、事前評価時には鉄骨造にする選択肢は検討しなかったのか。また駐車場に関しても事前評価時には平面式にするということは考えなかったのか。事業費が縮減されたのは良いことだが、事前に想定できていなかったのかという部分が気になった。

(健 福 局) まず建物の構造では強度の問題として当初鉄筋コンクリート造を考えていたが、詳細な検討の結果、十分な強度を保てるということで鉄骨造に変更した。次に駐車場については、必要な面積に相当する用地が日野公園墓地の中で取得できるということが当初計画段階で見込めなかったが、その後、用地の確保ができ平面型の駐車場で十分台数を見込めるということになり変更した。

(中村委員) 事前評価時には建物の構造的な部分に関して鉄骨造にするというところまでは検討できなかった、あるいは駐車場に関しては事前評価時にはそれほどの用地が確保できることは想定できなかったことが、技術的なことや周囲の環境のことなどによりあったので、計画を進める段階で変更して、結果的に事業費を縮減できたという理解で良いか。

(健 福 局) そのとおりである。当初の予定では強度の問題というのは慎重に見ざるを得ないと考えていた。また駐車場についても、日野公園墓地は区画数が多数ある墓地で、駐車場のためには広範囲の墓地を移転しないといけないと考えていたが、墓地以外の敷地を割り当て当初の想定より少ない墓地の移転で駐車場用地を確保できたのでこのような結果になった。

(中村委員) 事後評価なので、まずは事前評価ではしっかりと計画していたという確認、その上で状況が変更した中で様々な検討を行い努力して改善して事業費の縮減が適ったということが上手く伝わったので大丈夫である。

(委 員 長) 中村委員の質問に関連して調書(案)2ページの下の部分に、事業評価時には平成25年に基本設計を行いと記載があるが、基本設計は事業評価の後にしたのか、それとも前にしていたのか。

(健 福 局) 基本設計は事前評価の後に行ったものである。

(委 員 長) 先の市道環状4号線交差点改良事業の事前評価の時は、現在、詳細設計の最中との説明だった。それで基本的には事前評価を何も無い状態でアバウトな費用で審議に諮ると後で変更することになる、そうかと言って逆に、事前に綿密に調査を行うと事前評価に諮る際に既にお金をかけてしまっている状態になるため、何をもって事前評価とするかは一長一短である。確実にできると判断しているような時にはそのやり方やその詳細が大丈夫ということがこの委員会での評価対象になるが、その提案に対し事業を進めて良いと話をすると、事業費がアバウトならその後変更していくことになる。それぞれの事業の特性などにより異なるだろうが、今後そのようなこともあること

を前提にこの事前評価をどのようなタイミングで諮るべきかを考えながら実施していくことが重要だと思う。それでは、本案件は意見具申なしとし、妥当で良いか。

(委員) 異議なし。

(委員長) それでは、本案件は妥当とする。本件の審議については以上

1 (3) (仮称) 舞岡地区新墓園整備事業について

(健福局) 議事Ⅱ 1 (3)について説明

(委員長) 質問等あればどうぞ。

(委員) 質問・意見なし

(委員長) 本案件について意見具申はなく、事業の継続は妥当で良いか。

(委員) 異議なし。

(委員長) それでは、本案件は妥当とする。本件の審議については以上

1 (4) 横浜市中央卸売市場青果部施設整備事業について

(経済局) 議事Ⅱ 1 (4)について説明

(委員長) 質問等あればどうぞ。

(鷺津委員) 本事業の重要性、必要性には疑いの余地がないところであり、事業は進めてもらいたいですが、自分の専門である環境という立場から言うと、説明が若干不足している部分があるのではないかと思います。特にF 1、2、3棟にある冷蔵保管施設については環境負荷が最も取り沙汰されているところである。熱の利用に関しては、ヒートポンプや地中熱の利用など地域における再生可能エネルギーという環境配慮として大きな面があると思うが、その辺りの配慮がどのようになっているのか教えてもらいたい。また、これはほかの事業に対しても私の立場から意見を述べているところではあるが、調書(案)4ページのその他の欄に環境配慮のこともまとめて記載されていることがある。コスト縮減も大事な事だが、環境への配慮、あるいは本日の道路事業の審議で申し上げたようにもう少し拡大したSDGsへの配慮を別項目として記載しても良いのではないか。その他としてまとめてしまうのではなく、環境やSDGs、特にこの場合は物流事業者やトラック運転者などの労働時間の問題にも言及があったが、そうした労働時間、労働環境というようなことも含めてそのような配慮に対してもう少し言及が必要ではないか。今後、説明ではその点も考慮し、もう少し拡充した記載で調書(案)も確定してもらえると嬉しいが、その判断は委員長に一任する。今後へのニーズとして提案する。

(経済局) 環境負荷の観点で冷蔵保管庫の話があり、これは低温庫に変更したことを先に説明させて頂いたと思うが、冷蔵施設でもいわゆる冷蔵庫としての性能を持つものでは、商品の関係から10℃より低い温度で保管するためのものか、あるいは10℃程度で保管するためのものがある。現在、本事業で整備する冷蔵施設はその10℃程度で保管する低温庫を考えている。この辺りは使

用電力量の違いも当然あり、また先述の場内事業者との打合せで負荷の低いその低温庫に変更しているところがある。次に、物流 2024 年問題への対応としてトラックの待機場所についても先の説明で少し触れたが、現状では場内が狭い中、なかなか屋根がないところには荷降ろしができない、しかしその専用の場所を取ることもできないというところもあるのだが、運用の中で、例えば、青果を取り扱う事業者が商品を購入に来る時間帯以外には運送業者がトラックを止められるような場所として利用できるようにすることも場内事業者と話をしている。現在、具体的な調整を行っているところである。

(鷺津委員) そのような理由で配慮されているということなので、その配慮を調書(案)にしっかりと明確に記載してもらうためにも、そうした労働環境や環境への項目を見える化し記載するべきだという意見である。また、低温庫にするかどうかではなく、そのエネルギーについては再生可能エネルギーを利用するとか例えば、地中熱や周辺の海の熱もあるので、そうした周辺の未利用エネルギーを利用するなど、やや踏み込んだところへの配慮の有無を教えてください。もし無い場合は今後是非考えてもらいたい。

(経 済 局) 現状、未だそこまで踏み込めていない状況ではあるので、今後の課題として検討していきたい。

(委 員 長) 調書(案)のその他の欄に記載としてまとめているが、事業実施のときは具体的に気をつけてそれぞれの項目について検討することという意見だが、それで良いか。

(事 務 局) 調書(案)4ページのその他の項目の記載の修正の提案を委員から頂いたので、事業局と調整の上、この場の質疑応答の内容も含め、記載事項を充実させる方向で調整することで、いかがか。

(鷺津委員) 森地委員長の判断に一任する。今回はこのままで、次回からということでも大丈夫なので、作業負担との関係で検討してもらいたい。

(委 員 長) 記載を変更するならその方が良い。問題は、実施時に適切にやるかどうかである。

(事 務 局) 修正の方向で調整させて頂く。

(委 員 長) 分かった。

(中村委員) 事業を実際開始した後に場内事業者との打合せで様々な調整事項が挙がり、結果として事業費が増加した過程は理解するが、この増加は仕方ないものであるのか、あるいはもう少し頑張っていれば当初から盛り込むことができているのか、そこを確認したい。事業としては実際事業に着手してみると様々な事が分かってくるということはあることなので、それならそれで良いのだが、無造作に次々と事業費が増加していったと思われるとむしろ良くないので、事前にやれるところはしっかりと行い、場内事業者との調整で具体化していく中で、課題が出てきたのでその対応に伴い増加したという理解で良いか。

(経 済 局) そのとおりである。本事業では当初、事前評価に諮った内容としては基本計画がまとまった段階でのものであり、例えば、どのような建物をどの位置に新設した方が効果的に利用可能かなどの内容を場内事業者と事前に打合せしていたものである。事前評価の後、詳細な設計内容についてその段階でまた場内事業者と調整をしている。例えば、具体的な話としてF 2棟に冷蔵施設を設けるといふことがあるが、これは当初計画では入っていない。当初は荷捌き等の場所だけ整備し、利用者が使い勝手に合わせながら必要な冷蔵施設を自前で用意するという計画であったが、設計配置の中で場内事業者が自分たちの使い勝手を考え、ここにはより規模の大きな冷蔵施設を開設者の方で設けてもらいたいというような要望があり、変更して対応することにしたといふことがある。このように事業を進めていく過程において打合せを重ねていく中でそれぞれ必要な要望は出てくるというところもあるといふことについて理解頂ければと思う。

(中村委員) 様々な案件で類似のことは起きるのだが、やむを得ないことはやむを得ないとしても、事業着手の前に行う事前評価時にどこまでその後大きく変化することを踏まえるか、その仕分けの話となるであろう。例えば、事業採択した後に大きく変化した時には必要に応じその情報を委員会に共有するなど、その点の取扱や捌き方は事務局も含めて課題として認識を共有できればと思う。本日の説明で私は理解したので、調書(案)の記載の修正は求めない。

(望月委員) 事業の必要性については理解でき、このような設備の充実を図ってもらいたいと思う。これは調書(案)の記載の修正などといふことではないが、一点だけ教えてもらいたい。この事業は基本的に市債を発行し、場内事業者から施設使用料を徴収して返済する仕組みで運営することが原則である。今回、全体の事業費が約82億円に増加し、県の補助金が約11億円入ってくると市債は約70億円を発行する話になるが、追加的な市債の償還に関して見通しはどうなっているのか。要するに、需要量が増加していけば当然施設使用料等の値上げをしなくても市債を償還することが可能だが、仮に需要量が増加しないでこのくらいの規模で継続した場合には施設使用料を上げざるを得ないことになる可能性もあると考える。近隣他都市の市場との競争における条件も相当高くなっている状況を鑑み、今後の見通しを教えてもらいたい。市債の返済に当たり施設使用料の値上げをある程度想定しているのか。

(経 済 局) 現在の施設使用料を値上げすることに関しては、当初から場内事業者に施設を新設することに伴うこととして説明は行っている。

(望月委員) 値上げを想定しているといふことか。

(経 済 局) そのとおりである。

(望月委員) 市債の返済を施設使用料で賄っていくことである程度見通しが立っているといふ理解で良いか。

(経 済 局) そのとおりである。

(望月委員) それなら採算性が確保されることになると思うので、収支状況については

	<p>理解した。</p> <p>(委員 長) 中村委員の先の指摘は大変重要なことであり、建築案件については以前に直してもらった経緯がある。要するに、基本計画、基本設計、実施設計の内容がいい加減なものであればその段階は必要ないのでないか、またその3段階となっている事業の進め方を必ずしも標準とするのではなく、事業特性に応じた臨機応変な対応をしていくべきということ。今回の場合は場内事業者との打合せによるものなので、誤解があるかもしれないが、横浜市で基本計画や基本設計などコンサルタントに丸投げし機械的に進めていないでしょうねという心配があるので、こういうことについては是非真面目に考えてもらいたい。初めから基本計画や基本設計の段階でしっかりと検討しておけば事前に解決できたということもあり得るし、本日の一つ前の審議案件では基本設計、地質調査が1年間、実施設計、用地取得が1年間でそれぞれ終了しているが、機械的に進めているようなイメージを何となく受けるので、1年をかけて機械的に必ずコンサルタントに発注するとの発想はしないで短期間でできることは速やかに進めるようにしてもらいたい。これは本案件についてのコメントではなく、事業全体に関する横浜市の姿勢についての私の印象である。それでは本案件について意見具申はなく、事業の継続は妥当で良いか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>(委員 長) それでは、本案件は妥当とする。本件の審議については以上</p> <p><u>2 その他</u></p> <p>・道路部会及び第3回委員会の開催について</p> <p>(委員 長) 事務局からその他あるか。</p> <p>(事務局) 特にない。</p> <p>(委員 長) 本日の議事は以上</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第・座席表・委員名簿 ・資料① [事前評価] 市道環状4号線交差点改良事業の調書など一式 ・資料② [事後評価] 日野公園墓地納骨堂整備事業の調書など一式 ・資料③ [再評価] (仮称) 舞岡地区新墓園整備事業の調書など一式 ・資料④ [再評価] 横浜市中央卸売市場青果部施設整備事業の調書など一式 <p>2 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議録は、委員に確認後、委員長に確認する。 ・本日の審議結果等の資料は、委員長の確認で確定する。